127
7
360

幻燈
應用

人體寄生蟲解說書

自第壹圖
至第廿圖

特

058237-000-3

特25-566

人体寄生虫解説書（幻燈応用）

進成社

M22
CBB-0433

特25
566 W2-14954

帝國圖書館藏

應用 幻燈

人體寄生蟲解說書

自第壹圖
至第廿圖

東京 進成社藏版

幻燈應用人體寄生虫解說書

目次

第一圖　原生蟲類　一丁
第二圖　原生蟲類　九丁
第三圖　吸蟲類　十三丁
第四圖　吸蟲類　十八丁
第五圖　吸蟲類　二十二丁
第六圖　絲蟲類　二十八丁
第七圖　絲蟲類　三十一丁
第八圖　絲蟲類　三十六丁
第九圖　絲蟲類　四十一丁
第十圖　線蟲類　四十四丁

第十一圖　線蟲類　四十九丁
第十二圖　線蟲類　五十四丁
第十三圖　線蟲類　六十丁
第十四圖　鉤頭虫類　六十五丁
第十五圖　環節動物　七十一丁
第十六圖　環節動物　七十七丁
第十七圖　海蟲　八十五丁
第十八圖　囊蟲　八十七丁
第十九圖　腸蟲ノ卵子　八十九丁
第二十圖　囊虫　八十九丁

幻燈應用　人體寄生蟲解說書目次終

第一圖　原生蟲

(一)　大腸バラレチドウム（ハ＝胚珠或ハ核キ＝虛足セ＝赤血球ノ＝濃球）

該蟲ハマルムステン氏ストックホルム府ニ於テ始メテ發見ス其患者ハ曾テ虎列刺ニ罹リ爾來二年間ハ消食作用常ナラス或ハ大便秘結シ或ハ下瀉ヲ起シ伴フニ腹痛ヲ以テセリ氏ハ該患者ノ肛門ニ一寸許リノ損傷アルヲ認定セリ其傷ハ血液ヲ混シタル濃汁ヲ出シ其汁ニ無數ノ該蟲存在セリ而ノ其數ハ患者ノ健躰ニ從スニ從ヒ漸次減少シ全ク無キニ至レリ

該虫ハ唯人類ノミナラス豚ノ大腸ニモ亦棲メルヿハロイカールト氏ノ實驗ニ因テ知ルヲ得此虫ハ乾燥シテ空中ヲ

飛行シ得ヘク而メ人類ノ胃中ニ吸入スルナリ診定ニハ只タ顯微鏡ノ一法アルノミ療法ハ慢性腸加答兒ニ對シテ施スヘシ

(二) 淡水ニ棲メルアーミバ透明ナル外層并ニ粒狀ノ内層ヲ示ス 宇解 仝上

(三) 仝上包囊ヲ汚泌シタル有樣ヲ示ス

談蟲ハシヨッシュ氏カ始メテ聖彼得堡ニ於テ發見セシモノニテ其患者ハ赤痢症候ヲ呈シ蟲ハ其大便并ニ大腸内ニ無數ニ存在セリ依テアーミバヲ實驗セント欲セハ下痢患者ノ大便ニ詳査ヲ加ヘハ蟲ノ存在ヲ認ムルヿ決シテ稀レニアラサルヘシ

元來腸アーミハハ真正ノ寄生者ナリヤ又素ト寄生者ナラスヤ飲水ト俱ニ口ヨリシ或ハ水浴ノ際肛門ヨリシテ人腸ニ侵入スルモノナルヤ是又實驗ニ乏シクシテ審明スルヿ能ハス唯顯微鏡ノ力ヲ假リ蟲ヲ大便中ニ認定スルノ一法アルノミ又此蟲ハ人躰内ニ於テ非常ニ繁殖スルヿ疑ヲ容レス患者カ日々排出スル大便中ニ其數ヲ減ンセサレハナリ

リヨッシュ氏ハ規尼涅灌腸法ヲ以テ蟲ヲ殆ント殲滅ニ至ラシムルヲ得タリト云フ蓋シ規尼涅ハ厚生蟲一般ニ對シテ劇毒ナリトス

(四) 蜻蛉ノ腸ニ寄生スル簇虫

(五) コナムシノ腸ニ寄生スル蔟虫

(六) 蚯蚓ノ精嚢ニ住ム蔟虫

(七) 二個ノ蔟虫相接着シ外圍ニ包嚢ヲ汚泌シタル狀ヲ示ス

(八) 接着包嚢ノ内容ガ許多ノ胞子ニ分割シタル有様ヲ示ス

蔟虫部ニ属スルモノハ概子微小ノ躰形ナレ𪜈稀ニハ十六ミメノ長キニ達ス蚯蚓ノ睾丸蜻蛉ノ腸ニ於テ之レヲ見ル丁屢ナリトス蓋シ其平居蔟群ヲナスヲ以テ此名アリ躰軀ハ楕圓若クハ細長外面ニ透明ナル薄キ被膜アリ躰ノ元形質ハ概子内外二層ニ別ル其外層ハ鮮明反之内層ハ密ニ粒

狀核其中ニ在リ而ノ核点ハ核中ニ顯然タリ或ル種類ニ在テハ躰ノ前部延長シ其末端ニ數鉤ヲ負フ是レ宿主ニ附着スル用ニ供ス又營養ノ採取ハ一切外面ノ滲入スル所ナリ此故ヲ以テ特別ナル消食管ハアル丁ナシ空胞収縮胞等ヲ欠如ス

(九) 卵形コクシヂウム

(十) 仝上殼ノ内容ハ球狀ニ縮収セリ

(十一) 仝上内容ハ四個躰ニ分裂ス

(十二) 仝上四個ノブソロスペルム發生セリ

(十三) コクシヂユム嚢ヲ有スル家兎ノ肝臓

(十四) 穿孔コクシヂユムノ腸粘膜細胞中ニ占居スルノ狀

(十五) 仝上包囊ヲ汚泌シ其内容ハ一個ノプソロスペルムニ變セリ

(十六) 仝上プソロスペルム内許多ノ鎌狀躰ヲ見ル

(十七) 仝上プソロスペルムヨリ取リタル鎌狀躰(胞子)其一ハアミーバ様ノ運動ヲナス

卵形コクシヂームハ家兎ノ肝管ニ在ル丁少ナカラス談管ハ所々膨大シ囊狀ヲナシ其大小恰好ハ定メナシ

コクシヂームハ其數小ナルトキハ敢テ大患ヲ致サヽルヘシ然レ𪜈其侵入多量ニ若クハ幾回モ(談蟲ハ宿主躰内ニテ繁殖セス)重ナルニ於テハ肝臓膨大シ血管ニ壓迫ヲ施シ且ツ膽液ノ量及ヒ性質ニ異常ヲ來シ或ハ腹膜ヲ炎衝スル

ニ至ル家兎ノ此病ニ罹リ斃死スルモノ甚タ多シ

顯微鏡的ヲ以テコクシヂームヲ大便中ニ搜求ス可シ但シ其外觀ハ裂頭絲蟲又ハ吸蟲類ノ卵子ニ紛ラハシキヲ以テ之レト錯誤セサル様スヘシ

(十八) 跳ボト

(十九) 仝上ノ分躰ヲ始メタルモノ

本躰ノ長サハ六ミメ位ナリウエードル氏ハ之レヲ不潔ナル潰瘍中ニ夥多發見セリ然レ𪜈未タ充分ノ確説ヲ得ス只タ原生動物中ノ群動胞子(スワルムスポール)ナラント云フ

(二十) 蛙ノ腸ニ寄生スルトリコモナス

(廿一) 腸セルコモナス

談虫ハダウエン氏之レヲ格列刺及ヒ弟扶斯患者ノ大便中ニ發見スランプル氏ハ之ヲ下痢症小兒ノ粘質大便中ニ見タリ此虫ハ以上述ベタルガ如ク格列刺若クハ其他下痢症ニ存在スト雖ヒ談疾病ノ素因ニアラザルヿ言ヲ待タス察スルニ談蟲ハ飲料水中ニ在リテ人胃ニ達スルカ或ハ其肥子乾燥シ空中ニ在リテ人之レヲ吸入ス而メ健康體ニ入リテハ發育スル能ハサルモ獨リ下痢患者ハ其發生ニ適スルモノニテ速ニ發育生殖ヲナス大便ヲ顯微鏡下ニ檢シ蟲ヲ認定セント欲セハ大便ノ新鮮ニシテ未タ温度ヲ失ナハサルモノヲ取ルヘシ都テ温血獸ニ寄生スル鞭毛類ハ寒冷ニ堪ヘス忽チ死シテ其跡ヲスルモノナリ藥劑ハ前(二)(三)ト仝シ

第二圖　原生蟲

(廿二)　腟トリコモナス

躰軀楕圓鞭毛二個乃至四個躰面波狀ニ動搖セル自在膜アリ或ハ此膜ナクシテ纖毛列アリ

談虫ハ酸性腟粘液中ニ棲息ス即チ慢性或ハ劇性(淋疾)ノ腟加答兒ヲ患フル者ニ甚タ多シ而メ健康者ニハ之レヲ見ルヿ無シ

(廿三)　腸トリコモナス

此虫ハ其形狀前種ニ類似スト雖ヒ躰ノ前端部ニ往々凹所アルヲ見ル而メ十二個乃至二十個ノ纖毛ヲ生ス此外前端

二鞭毛四個アリ(圖中鞭毛ヲ詳ニセス)又前膣トリコモナス及ヒ此蟲ハ外觀上差異ノ点アルニ係ラスシテ同一種ナリ

談蟲ハマルシャンド氏始メテ之レヲ弟扶斯患者ノ大便中ニ發見セリ

(廿四) 腸メガストマ(ハ前ヨリ見ル　ハハ鞭毛ヲ失ヘタルモノ　ハハ側ヨリ見ル)

此蟲之レヲ鼠ノ腸ニ甚タ多ク見ル時トシテハ猫モ亦之レヲ有ス然レモ此等ノ獸類ハ之レカ爲メ聊カモ患害ヲ受ケサルガ如シグラッン氏ハ伊太利ニ於テ下痢患者三人ニ談蟲ヲ無數ニ發見セリ恐ラクハ鼠ヨリシテ之ヲ得タルナラン

(廿五) 豚肉ニ在ルミーシエル氏囊

(廿六) 仝上ノ含有セル胞子

此蟲ハ其有スル纖毛ニヨリ活潑ニ運動スト雖モ又移動セサルモノモ少シトセス外物ニ附着シ居ルモノ是也(二六)ハ其纖毛ハ尚之ヲ存シテ以テ食料採取ノ用ニ供セリ

(廿七) 淡水ニ生活スルボルチセラ、子ブリヘラ

(ノ=ロ　シヨ=食道　シ=收縮胞ハ=核)

(廿八) 蛙腸ニ寄生スルヲパリーナ、ラナリーム

此蟲ハ所謂核及ヒ核点ヲ含藏スルヲ通例トス此兩者ハ種々ニシテ或ハ圓形或ハ楕圓若シクハ長形ニシテ屈曲ス又時トシテハ念珠狀ヲナス核点ハ概子光澤アル小長形躁ナ

リトス収縮肥モ又概子外層ノ蓄有スル所ナリ之ニ附属セル排泄管並ニ其外孔ハ往々視察スルヲ得蛙類モ亦此蟲ヲ寄生セシムルヲ常トス試ニ其腸管ヲ開キ内容ヲ撿セハヲバリーナト稱スル無口楕圓ノ蟲類ヲ無數ニ見ルヿアルベシ談蟲ハ虹彩光(イリデッセンス)ヲ放ツヲ以テ容易ニ識別シ得可シ

(廿九) 大腸バランチヽウム、コリ(エ=ハ營養物ノ塊 コ=ハ肛門)

(三十) 大腸バランチヽウムノ二個接着スル狀ヲ示ス桿ハ未タ變化セス

(卅一) 大腸バランチヽウムノ分躰ヲ始メタルモノ

大腸バランチヽウムハ前一圖ノ(一)ニ出タセルモノト同一種ナレハ夫レニ依リテ知ルヘシ

第三圖　吸虫類

(一) 住眼吸虫

躰ハ長楕圓其長サハ五四ミメナリ口吸盤(コキ)ハ腹吸盤ヨリモ大ナリ腸(チ)ハ二分岐シ甚タ著明ニ見ルヲ得生殖器ハ未タ發達セズ此虫ハ曾テ歐洲ニ於テ唯一回齡五ケ月ナル小兒ノ眼中ニ四個ヲ發見セリ談小兒ハ分娩ノ時ヨリ盲目ニテ身躰衰弱シテ終ニ死セリ虫ハ皆水晶躰ト其被膜トノ間ニ占居シ剖割前モ角膜外ヨリ既ニ其形ヲ窺フヲ得タリ虫ノ外圍ニハ白色ノ物質アリ思フニ是レ包嚢ヲ造ル爲ニ汚泌シタル所ノ液ナルベシ

右ノ虫ハ幼稚ナル丁疑ヲ容レズ而ノ魚眼ニ寄生スル吸虫

ヨリ推察スルニ眼ニ在リテハ成長ヲ遂ゲザルナルベシ談虫ノ来路如何ノ問題ニ付テハ唯臆説アルノミロイカルト氏ノ説ニ依レバ洗浴ノ際水中ニ在リタルセルカリア（尾ヲ具ヘタル幼吸虫）角膜ヨリ穿入シタルカ又ハ小兒ノ分蛻前ニ母躰ノ血液ト共ニ入リ来リタルカノ内ナルベシ現ニ魚類ニ在テハセルカリアハ外部ヨリ角膜ヲ通貫シテ眼内ニ入ルヿアリ又或吸虫ハ幼時血液ト共ニ宿主躰内ヲ循還スルヿアリ故ニ血液ト共ニ虫ヲ胎兒ニ傳フルヿ無キヲ得ズ實際或蜥蜴ノ胎兒ハ此方法ニ因リ圓虫ヲ母躰ヨリ受クルヿアルハ曽テ目擊スル所ナリ

(二) 肝蛭

(三) 肝蛭ノ卵子
(四) 仝上ノ子蟲
(五) 仝上ノスポロシスト
(六) 仝上ノレヂア
(七) 仝上ノセルカリア
(八) 仝上ノ樹枝狀ノ腸ヲ示ス
(九) 仝上ノ前半生殖器ノ配置ヲ示ス

肝蛭ハ人躰ニ寄生スルヿ幸ニ稀レナリ而ノ假令之レ有ルモ僅少ナルヲ常トスチーシング及ヒチリテレル兩氏ノ報道ニ依レハ獨リダルマシア國ノナレンタールト稱スル地方ニテハ肝蛭ノ人躰ニ在ル鮮カラス一種ノ地方症ヲ爲

セリ然レ𪜈其詳細ハ未タ知ルヲ得ズ幼肝蛭ハ入躰中肝臓ノ外皮上潰瘍中ニ發見スルアリ曽テギースケル氏ハ千八百四十八年十二月瑞西國ツーリヒ府ニ於テ一婦人ノ蹠ニ生シタル潰瘍中ニ幼肝蛭二個ヲ發見シタリ又肝蛭類ハ種々ノ哺乳類ノ肝管及膽嚢中ニ寄生ス就中綿羊ハ最モ多ク且ツ屢是レヲ宿在セシム

肝蛭ノ産スル無數ノ卵子ハ宿主ノ大便ト共ニ外界ニ出ツ若シ水中ニ落ツルヰハ纖毛ヲ帯ビタル子虫ヲ發生ス四子虫ハ水中ニ游泳スルヤ數時ナラズシテリム子ウス、トラシカチユルスト稱スル貝類ノ躰内ニ穿入ス否ラザレバ死ス纖毛皮ハ穿入ノ際之ヲ脱去ス而メ中間宿主即チ彼ノ軟

体動物ノ躰中ニ入ルノ後ハ子虫ハ成長シテ(丑)スポロシストトナル又此虫ノ各種子ハ終ニ(寅)レヂアニ變ズ又レヂアハスポロシストノ壞滅スル後尚ホリム子ウスニ寄住ス其形狀ハ第六圖ニ顯ハシタルカ如クナリ但シレヂア所生ノ種子ハ或ハセルカリアニ或ハ復タレヂアニ發育ス即チ季節寒冷ナルヰハセルカリアト成リ温暖ナルヰハレヂアトナル然シテレヂアハ數代相繼續シテ大ニ其數ヲ増殖シ寒冷ニ至レバ皆セルカリアヲ産スレヂアハ其躰壁前部ニ一小孔ヲ有ス躰内ニ生ズルレヂア若シクハセルカリアハ即チ此孔ヨリ産出スルモノナリセルカリアノ一レヂア中ニ生ズル數ハ十五乃至二十ナリトス其躰ハ極メテ小ナルモ

肉眼ヲ以テ視察スルニ足ル

顯微鏡的ノ一法ヲ以テ虫ヲ大便中ニ探求スベシ病羊ノ糞中ニハ之レヲ視察スル丁甚タ容易ナリ療法ハ後ニ槍形チストマヲ記載スルノ條下ニ出ス

第四圖　吸蟲類

(十)　大形吸虫

談虫ハ主トシテ亞細亞ノ東部ニ存在スルガ如シ從來此虫ヲ認メタルノ例左ノ如シ

千八百四十三年英國ニテ死シタル一水夫(ラスカール人)ハ東印度ノ航海業ヲナシタルモノナリ談虫ヲ十二指腸中ニ十四個膽囊及ヒ肝管ニ九個ヲ宿在セシメタリ又千八百

七十四年英國ノ一宣教師並ニ其妻ハ支那ヨリ本國ニ歸リタル後間モナク兩人トモ數虫ヲ大便ト共ニ排出セリ此他諸例ヲ略ス重モニ支那人ニ多キ丁言ヲ待タサルナリ此虫ハ人躰ヲ去リシ後ハ宿主ニ患害ヲ殘サヾルナリ虫ノ退去ヲ促サンニハ肝蛭若クハ槍形ギストマト同一法ニ據ルヘキナリ

(十一)　槍形吸虫

(十二)　仝上ノ子虫

槍形ギストマハ從來北米及ヒ歐洲ニ見ル所ニシテ羊牛鹿兎豚猫等ノ膽囊及ビ肝管ニ寄生ス而メ腸中ニ在ルハ將ニ宿主ヲ退去セントスルノ虫ナリ談虫ハ人躰ニ寄生スルハ

稀レナリ曽テキルヒ子ル氏パポヘミア洲ニ於テ齡九歳ノ小女（牧蓄者ノ女）ノ膽囊中ヨリ該虫四十七個ヲ得タルアリ恐ラクハ該小女ノ死スル原因ハ該虫ナリシナルベシ

槍形ヂストマハ成長ノ後自ラ其宿主ヲ去ル故ニ診断ニハ虫若クハ其卵子ヲ糞中ニ搜索スルヲ要ス虫ノ存在ヲ診定スル以上ハ先ツ之ヲ膽囊若クハ肝管ヨリ誘出スルヿ緊要ナリ其方法ハ膽液汾泌ヲ増量セシムル鑛水或ハ其他同効ノ藥劑ヲ投スルニアリ而シテ同驅虫劑ヲモ服セシムベシ

又ヂューランド氏合劑モ又軀除ニ有効ナリトス

（ヂューランド氏合劑トハエーテル二部及ビテレビン一部ヲ混和シタル者ナリ一日ノ服量八百二十滴又之ニカマテ丁幾或ハ綿馬越幾斯ヲ加フベシ）

（十三）肝臓ヂストマ

（十四）仝上ノ一部卵巣及ビ雌生殖管ノ關係ヲ示ス

前記ノ虫ハ本邦人ノ肝管ニ見ル所ニシテ明治十六年一月（岡山縣病院獣醫學士四氏著ノ肺臓及ヒ肝臓ヂストマ蟲ノ實見巻ノ一）ニハ該患者ノ來歴病記解剖記事等ヲ載スヲ以テ肝虫病ノ詳細ヲ知ラント欲セハ必讀スベキナリ又我邦ニ於テ重ニ流行地トモ稱スベキハ備前備中備後等ナリトス又此虫ハ猫ノ肝臓ニモ寄生スルヿアリ此虫ノ卵子水中ニ落チテ纎毛ヲ生シセルカリアト成リ食物ニ附着シ人胃ニ達シテ繁殖スルナラント又土人ノ言ニ由レハ症候ヲ呈スルハ夏期或ハ初秋ナリトス果シテ然ラハセルカリ

アハ此期ニ於テ肝管ニ進入スルナルヘシ肝經ニ在テモ坊虫ノ移傳ハ凡ソ右ト同時ニ起ルナリ

患者ノ大便ハ散亂セシムベカラズ且ツ肥料ニ用ユルヲ禁ズベシ成ルベクハ之ヲ燒キ棄テ或ハ海中ニ投シ以テ生卵ヲ撲滅スベシ小蝦子小魚貝類蔬菜ハ熟煮セサレハ食スベカラズ且ツ用水中ノ貝類ハ之ヲ撲滅スルヿヲ務ムベシ

第五圖　吸虫類

(十五) 肝臓ヂストマノ卵子

(十六) 仝上ノ横断面但腹吸盤ノ位地ヲ切截ス

(十七) 仝上但腹吸盤ト卵巣ノ中間ヲ切截ス

右 (十五)(十六)(十七)ハ四圖(十三)(十四)ノ解ト仝シ

(十八) 篦形吸虫

篦形ヂストマハ從來支那人ニ發見スル所ナリ其始メテ之ヲ視察シタルハ千八百七十四年ノ丁ニテ倫敦ニテ客死シタル支那人(大工職)ノ肝管中ニ於テセリ恐ラクハ該虫ハ其原因ナリシナルベシ近時ニ至リグレゴール氏ハ支那ヨリシテ肝虫患者八名ノ報道ヲナセリ思フニ此虫ハ支那ニテハ稀有ニ屬セズシテ往々人命ニ危害ヲ與フルモノナルベシ

(十九) 接着吸虫

該虫ハ千八百七十五年ニ唯一回印度カルカツタニテ死去セル印度人ノ肝管中ニ夥多發見セリ同虫ハ米國産ノ狐並

二印度ノ野犬ノ肝臓ニモ寄生スト云フ其人躰ニ入ルハ偶然ニ出ルナルベシト思ハル

(二十)　雜生吸虫

該虫ハ千八百五十一年ピルハールツ氏埃及小兒ノ腸ニ夥多發見スルヿ二回但シ大患ヲ招起セザルガ如シ通常ノ驅虫劑ヲ以テ驅除スルヲ得ベシ

(廿一)　肺臓ヂストマ

(廿二)　仝上ノ内部諸機関ヲ示ス

該ヂストマハ人躰中肺臓ニ寄生スリンゲル氏千八百七十九年臺灣嶋ノ淡水(タムスイ)ナル地ニ於テ始メテ之ヲ發見ス次テ厦門ニ居住スル醫士マンソン氏ハ或ニ三患者(皆臺灣ニ居

住シタル支那人)ノ喀痰ニ黄色楕圓ノ物躰ヲ無數ニ見ル此物躰ハ前ニリンゲル氏カ發見セル肺蟲ノ卵子ナルヿヲ証明セリ又肺蟲ハ肺臓中ニ腔洞ヲ造リ從テ種々異常ヲ其組織中ニ來シ而メ喀血ノ原因トナル喀血ハ頗ル慢性其初期ニ在テハ輕易ノ咳嗽ヲ發シ赤色若クハ暗褐色或ハ汚穢煤色ナル粘稠ノ痰液ヲ喀出ス而メ患者ハ之ヲ意トセズ常ニ其職業ニ堪ユ如此シテ數年間ヲ經過スト雖モ患者ハ其害ヲ自覺セザルヿアリ或ハ唯僅カノ貧血及ビ歩行動作ノ際呼吸促迫ヲ興スノミ而メ俄然喀血ヲ來シ數回反復スルトキハ大ニ貧血ヲ呈シ疲勞甚シク爲メニ歩行スルヲ得ザルヲ常トス然リト雖俄然死ニ至ルモノニアラサルナリ

肺蟲ヲ人手ニテ肺質中ヨリ排除シ之ヲ撲滅センニハ未タ良法アルヲ聞カズ然レ𪜈蟲ハ漸次退去スルカ或ハ自滅スルヿアラン但シ蟲ノ生存ハ其何年間ナル未タ知ルヿヲ得ザルハ予ノ遺憾トスル所ナリ

(廿三) 住血吸蟲ノ雌雄

此蟲ハ雌雄異躰ナル点ニ於テ他ノ吸蟲類ト趣キヲ異ニシ其雄蟲ハ雌蟲ヲ抱キテ兩者相離ルヽヿナシ

詨蟲ハ千八百五十一年ビルハルツ氏埃及ニ於テ始メテ發見スル所ナリ此虫ハ人躰中大靜脈並ニ其枝脈或ハ腸間膜靜脈或ハ直腸及ヒ膀胱ノ靜脈叢中ニ住ス詨虫ハ亞非利加ノ東北海岸ニ最𪜈多シトス

(廿四) 人躰アンフストマノ雌雄

詨蟲ヲ人躰ニ發見スルヿ二回アリタリ兩度トモ東印度人ニテ虎列刺病者ナリキ蟲ハ盲腸蟲様垂及ビ結腸中無數ニ存在セリ

(廿五) 靜脈ヘクサチリヂウム

詨蟲ハ曽テ四回ノ發見ヲ經タリトロイトレル氏始メテ之ガ記事ヲ爲セリ氏カ此蟲ヲ視察シタルハ一男子ノ水泳中ニ破裂シタル脛前靜脈中ナリシ或説ニハ詨蟲ハ或水蟲若シクハ幼肝蛭ヲ誤見シタルナラント云

(廿六) 太頸ヘクサチリヂウム

(廿七) 排泄管漏斗狀ニ膨大シテ終結シ内ニ圓錐形ノ蠢動狀

アリ

諌蟲ハトロイトレル氏一婦人ノ卵巣近旁ニ發シタル潰瘍中ニ之ヲ發見ス恐ラクハ幼肝蛭ヲ誤認シタルナラント云フ

(廿八) 蛙ノ膀胱ニ寄生スルホリストマ、インテケリマム

第六圖　絲蟲類

(一) 無鉤絲蟲

(二) 仝上ノ頭

(三) 仝上ノ老成片節子宮ノ形狀ヲ示ス

(四) 仝上ノ畸形

無鉤絲蟲ハ人類ニ限リ寄生ス未タ曾テ他動物ニ發見シタルヿアラザルナリ人躰中其所在ハ小腸ナリトス通常單獨ニ存在スト雖モ概メ然ルニアラズ吾人ハ曾テ三個乃至七個ヲ一患者ニ發見シタルヿアリ

諌蟲ノ地理的播布ハ頗ル廣遠ナリ都テ牛肉ヲ以テ食用ニ供スル地方ニハ是有ト稱シテ誤ナカルベシ牛肉ヲ腥食スル習慣アル地ニハ殊ニ多シ蓋シ無鉤絲蟲ノ人躰ニ傳來スルハ牛肉ヨリスルモノナリ歐洲ニテハ諌蟲ハ殊ニ南部ニ多シト云フ其原因ハ恐ラクハ南部人民ハ多ク牛肉ヲ腥食若クハ半腥食スルニ因ルナルベシ

(五) 有鉤絲虫ノ老成片節子宮ノ形狀ヲ示ス

(六) 仝上ノ頭

(七) 仝上ノ前面

(八) 仝上ノ鉤（甲ハ前列 乙ハ後列）

(九) 仝上ノ卵子

（いハ卵殼、ろハ石灰殼 はハ卵黄ノ殘塊ナリ）

有鉤絲虫ハ人躰ニ限リ寄生ス其地理播布ハ家豚ト同一ナリ蓋シ豚ハ該絲虫ノ中間宿主ナルヲ以テナリ從テ豚肉ヲ腥或ハ半腥ニテ食スル習慣ノ行ハルヽ地方ニハ最モ多シ獨乙國ノ北部ニテハ往時豚肉ヲ腥食スルヿアリタルモ此風習ノ一旦衰ヘタル後ハ絲虫ノ數大ニ減少セリト云本邦人ニ於テハ該虫ハ稀ナルガ如シ蓋我邦人ノ豚肉ヲ食セザルニ原因スルヿ疑ヲ容レズ歐米諸國ニ於テ多ク該虫ヲ見

ルハ賣肉者、割烹人、廚婢等ニハ殊ニ多シ按ズルニ其職業タル腥肉ニ接近シ從テ幼虫移傳ノ機會多キガ故ナルベシ身躰非常ニ強壯ナル人ハ僅少ノ絲蟲ヲ有スルモ敢テ患害ヲ感ゼザルヿアリアビシニア土人ハ無鉤絲虫ヲ有スルヿ常ニシテ該虫ハ大便ヲ柔軟ニシ其瀉疑ヲ防クト稱シ反テ之ヲ喜フト云フ

第七圖　絲虫類

(十) 有鉤囊蟲ノ断面頭ノ創起ヲ示ス

(十一) 仝上頭ハ未タ外部ニ飜轉セス

(十二) 仝上頭ハ已ニ外部ニ突出ス

(十三) 仝上ノ尾端ヲ失ヒタル者

(十四) 葡萄狀ヲ爲セル有鉤囊虫

該蟲ノ人躰ニ生スルハ絲蟲卵子ヲ種々偶然ノ方法ニ因リ胃中ニ嚥下スルヨリ起ルヿ明ナリ卵子ハ外部ヨリシテ飲食ト共ニ胃中ニ達スルカ或ハ又有鉤絲蟲ヲ有スル人ハ便所ニテ不圖其指先等ニ粘着セシメ而メ卵子ハ爪下ニ埋伏シ生活力ヲ失ハス是ヨリシテ飲食ト共ニ卵子ノ口中ニ入ルハ其途決シテ遠キニ非ズ例ヘバ爪ヲ嚙ム(カム)ノ際或ハ髭ヲ撚ル子ル片等指先ノ口部ニ接スルハ其時機頗ル多シトス如此絲蟲ヲ有スル人ハ手指ニ卵子ヲ附着セシムルノ恐アリトセバ該卵子ハ或ハ其人ノ手ヨリ或ハ其人ノ執レル器具ヨリシテ他人ニ移傳スルヿアルベシ

以上ハ卵子一旦外界ニ達シタルノ場合ナレ𪜈有鉤絲蟲ノ患者ハ往々其躰内ニ於テ自己ノ宿スル絲蟲ヨリ卵子ヲ受クルヿアリ即チ絲蟲ノ後端幽門(ピロルス)ニ近接シ在ル時ハ老成片節ハ胃中ニ進入シ終ニ口ヨリシテ吐出サレ或ハ胃中ニテ消化セラル此際卵子ハ自在トナリ子虫ヲ放チ而メ子虫ハ直チニ胃壁ヲ貫穿シ血液ト共ニ躰ノ諸部ニ流通シテ有鉤絲中ニ成長ス

(十五) 蓑小絲虫ノ頭額ハ内部ニ収入セラル

(十六) 仝上ノ全群躰

(十七) 仝上ノ片節(甲ハ仝ク老成セザル者 乙ハ仝ク老成レタル者)

該虫ハ埃及國カイロニ於テ只一回人腸ニ發見セリ患者ハ

腦膜炎ニ罹リ斃シタル一小兒ニシテ蟲ハ多數ニ十二指腸中ニ在リタリ恐ラクハ偶然ノ人躰寄生蟲ナルベシ其幼蟲ハ未ダ認メタルヿナシト雖ヒ察スルニ或昆蟲ニ寄生スルナルベシ

(十八) 黄点絲蟲

談虫ノ發見ハ佛國ノ医士グレヂー氏ガマヨット島(マダガスカルノ沿岸ニ在ル一小嶋)ニ於テセリ氏ノ談患者ニ遇ヒシハ二回ニシテ其一回ハ齡十六ケ月ノ男兒又一回ハ齡二歳ノ少女ナリキ兩回トモニ患者ハ別ニ原因ナクシテ經攣ヲ發起セリ而メリチン油ヲ用ヒ蟲ヲ驅除(甲患者ノ排出シタル蟲數ハ九個ヨリ尠ナカラズ又乙患者ハ只二個ヲ

排出セリ)シタル後ハ亦再發スルヿナカリシト云フ談虫ノ發育紛傳等ハ未タ詳細ニ知ルヲ得ス

(十九) 瓜實絲虫

(二十) 仝上頭ノ一部顎ハ収入サル

(廿一) 仝上ノ片節生殖器ヲ示ス

談虫ハ犬及ビ猫ノ小腸後部ニ寄生スルヿ屢ナリ又齡九ケ月ヨリ三歳ニ至ルマデノ小兒ニ在ルヿ稀ナラズ(英國獨乙典瑪)談虫ノ小兒ニ在ルハ常ニ少數ナルヲ以テ特ニ病的異常ヲ發スルニ至ラザルガ如シ然レヒ其多數ヲ犬ニ生ズルヒハ消化的並ニ神經的ノ異常ヲ惹起ス

瓜實絲虫ノ幼虫(スコレックス)ハ楕圓ニシテ凡ソ三ミリメノ

大サナリ其狀包虫ニ在ル所謂頭ニ能ク似タリ犬虱ノ躰腔内ニ生存ス蓋シ犬ハ其排出スル所ノ瓜實絲虫片節若クハ其卵子ヲ舌ニテ躰上諸部ニ散有シ而ノ虱ハ之ヲ食シ以テ彼ノ絲虫幼虫ヲ生ズルナリ

犬及猫（彼ノ虱ハ猫ニモ寄生ス）ノ絲虫ヲ得ルハ皮毛ヲ舐ルノ際彼ノ虱ヲ胃中ニ取入ルニ由ル又該絲虫ノ小兒ニ生ズルハ恰モ包虫ニ於ケルカ如ク犬或ハ猫ヲ弄ブニ當リ不覺ニ其虱ヲ口ニ送了スルニ原由スルヿハ疑ヲ容レズ

第八圖　絲虫類

（廿二）裂頭絲虫

（廿三）仝上ノ頭及頸

（廿四）仝上ノ頭ノ横断面

（廿五）仝上ノ卵子

（廿六）仝上ノ幼蟲

（中間宿主ニ在リ）甲ハ自然大、乙ハ虫ノ縮少レタル狀ヲ示ス、丙ハ延長シタル形狀、）

（廿七）仝上ノ片節畸形

（廿八）仝上老成版節ノ正中縱断面

（廿九）仝上老成片節ノ横斷面陰莖ヲ通過ス

裂頭絲蟲ノ地理的播布ハ之ヲ有鉤若クハ無鉤絲蟲ニ比シテ大ニ狹隘ナルカ如シ抑モ該虫ハ近時ニ至ルマデ歐洲ニ限リ存在スル者ト吾人ノ想像シタル所ナルガ今ニ至テハ米國ニモ之有ルヲ知ル但シ甚タ稀レナリト云フ本邦ニ於

テハ裂頭絛蟲ハ頗ル多シ即チ本邦ニ見ル所ノ絛蟲ノ過半ハ該種ナリト云フモ誤ナカルベシ其多寡ハ中間宿主(本邦ニ在テハ主トシテ鱒魚)ノ在不在ニ大関係アルカ如シ越中越前ノ如キ又ハ北海道ノ如キハ孰レモ多數ニ鱒魚ヲ産スル地ニメ該虫患者ノ數ハ實ニ夥多ナリト云フ尚此他ニモ該虫ノ蔓延甚シキ地多カルベシ東京ニ在テハ該絛蟲ハ多カラズト雖モ亦次シテ稀ナリトセズ蓋シ利根川或ハ北海道ヨリ輸送シ来ル所ノ鱒ハ殆ト毎尾該幼虫ノ宿在セザルハナキナリ吾人能ク注意ヲ加ヘズンハ長ク天地間ニ寄寓スル能ハザルベシ

(三十) 心形裂頭絛蟲ノ前端部面并ニ頭ノ側縁ヲ見ル

(卅一) 仝上頭ノ表面ヲ見ル

(卅二) 仝上自然大ノ半

該虫ハグリーンランド及ビアイスランドニ於テ海馬脚臘獸並ニ犬ニ甚タ多ク且ツ屢々見ル所ナリ而メ其人躰ニ在ルハ稀ニシテ唯偶然ノ一ナルカ如シ其幼虫ハ魚類ニ寄生シ之ト共ニ食ハレ終ニ宿主ニ入ル一疑ヲ容レズ

(卅三) リグラ狀裂頭絛蟲ノ前端部

(卅四) 仝上自然大

該虫ハ從来日本及ビ支那ニ於テ發見セリ該虫ハ只タ人躰ノミナラズ亦或獸類ニモ寄生スルモノナルベシ其人躰中所在ハ腹膜下胸膜下若クハ其他躰部ノ結組織中ナラン一

甚タ信ヲ措クニ足レリ然レ𪜈虫ハ宿主内ニ在テ多少ノ動行ヲナシ其位置ヲ移轉シ或ハ躰腔ニ或ハ泌尿器中ニ穿入スルヿアルカ如シ抑モ談虫ヲ始メテ支那ニ發見シタル厦門ニ住セシ英國醫士マンソン氏ニシテ氏ハ千八百八十二年支那人（赤痢及ビ食道狹窄ヲ病ミ且ツ陰囊象皮病ニ罹リ手術後死シタルモノ）ノ屍躰中ヨリ談虫十有二個ヲ得タリ其内一個ハ右側胸腔ニ存生シ自餘ハ腸胃部腎臓ノ後ニ於テ腹膜下結組織中ニ或ハ蟠屈シ或ハ延長シテ埋在セリ新鮮ノ𪜈ハ十二乃至十四インチノ長徑ヲ有シ著明ノ運動ヲナセリト云氏ハ蟲ヲコッボルド氏ニ送リシニ同氏ハ之ヲ誤認シテリグラナリト鑑定セシトカヤ

（卅五）兎ノ肝臓ニ寄生スル魚形囊虫即チ犬ノ腸ニ入リテ鋸緣絲虫ニ成長スル者

（卅六）牛肉中ニ無鉤囊虫ノ有ル狀ヲ示ス

談蟲ハ種々偶然ノ方法ニ由リ人躰ニ移傳スルモノ故第七圖有鉤囊蟲ノ部ニ出セリ茲ニ略ス

第九圖　絲蟲類

（一）拘絲蟲

（二）極メテ効キ包蟲（イハ結組織包囊　ロハ半バ壓出サレタル包虫）

（三）稍々成大シタル包蟲

（四）肝臓ニ生シタル包蟲切リ開キタル所ヨリ内部ニ許多

ノ壞包ヲ見ル

(五) 包蟲壁斷面ノ豫想圖生頭胞并ニ頭ノ發生ヲ示スハ無頭ノ生頭胞ナリ

(六) 包蟲斷面ノ豫想圖ハ未タ飜轉セサル頭ロハ已ニ飜轉シタル頭はハ生頭胞ふハ内生壞胞ほハ内生無頭ノ壞胞へハ外生壞胞ナリ

(七) 包蟲頭ノ未タ飜轉セサルモノ

(八) 多室包蟲

(九) 葡萄狀包蟲

狗絲蟲ハ犬類(殊ニ野犬獵犬、牧畜家及ヒ賣肉家ノ犬又狼狐、等)ノ小腸ニ住ス狗絲蟲ノ存在スルヒハ許多(時トシテ

ハ數十)アルヲ以テ常トス人腸ニハ未タ談蟲ヲ見タルナシ然レヒ其幼蟲タル包蟲ハ往々人體ヲ襲侵スルヿアルハ吾人ノ夙ニ知ル所ナリ包蟲ノ生スル所謂頭ハ犬類ノ腸ニ入リテ凡ソ七週間ヲ經テ成蟲トナルシーボルト氏ノ說ニ據レハ狗絲蟲ノ一生ハ二ケ月ヲ越ユルヿナシト

(十) 無鉤絲蟲ノ一片節主トシテ生殖器諸部ヲ示ス

談蟲ノ片節ハ他種ノ者ト違ヒ患者歩行若クハ睡眠ノ際下便ヲ待タズシテ自ラ匍ヒ出シ甚タ不快ノ感覺ヲ生ズルヿ往々之アリ其肛門ヲ去ルニ當リ談部ヲ刺擊シ頗ル苛癢ヲ起シ患者ノ精神ヲ大ニ激セシムルモノナリ此圖ハ重ニ談蟲ノ生殖器諸部ヲ示スノミ略字解ニ依テ知セヨ

(十二) 裂頭絲蟲ノ一片節ノ一部生殖器ノ諸部ヲ示ス

談蟲ノ群躰中ニハ生殖器ヲ全備シタル片節ノ數非常ニ多シ通例最前部ノ五百乃至六百片節ニ於テハ生殖器ハ發達ノ途ニ就ケリ而メ自餘ハ都テ完全ナル生殖器部分ヲ有ス但シ子宮内ニ在ル卵數ハ首メ少許ニシテ漸々後部ニ趣クニ隨ヒ増數ス卵子若シ過度ニ積聚スルトキハ子宮ハ破裂シ繼キテ片節壁モ潰滅スルニ至ル然ルトキハ片節ノ中央ニ大孔ノ洞通スルヲ見ルベシ

第十圖 線蟲類

(十二) 蛙ノ肺臟ニ寄生スルラブド子マニグロヴエノーサ

(自然ノ大サ三五シメ) 談蟲ハ雌雄異躰ナリ今爰ニ

圖シタルハ雄生殖物發達ニ至リタル形狀ニシテ雌生殖物ハ後ニ至テ始メテ現出スルモノナリ

(十三)及(十四) 仝上ノ産スルラブチヽス狀子虫是レ彼ノ虫ノ自在生代ニシテ雌雄異躰ナリ即チ(十三)ハ其雌(十四)ハ其雄ヲ示ス(自然ノ大サ一、五乃至二ミメ)

談ラブチヽス狀幼虫ハ只一時水中ニ棲息スルノミナラス其際ニ又少シク成長ス而メ其宿主ノ腸ニ達スルヲ待テ成蟲ニ變ズルモノナリ幼蟲ハ時トシテ外界生活ニ適應スルヿ愈大ニメ其間ニ繁殖ヲナスハ水蛙ノ肺臟ニ棲メル(十二)ハ其一例ナリ談虫ハ始メ精虫ヲ生シ而メ後更ニ卵ヲ生ズル所ノ雌雄同躰者ナリ其肺中ニ在テ産スル幼蟲ハラブチヽ

ス狀ニシテ蛙ノ腸管ヲ經過シ肛門ヨリ出テ、水中或ハ濕地ニ達ス此在外蟲中ニハ雌雄ノ兩性アリ(十三及十四)日ナラズシテ有性生殖ヲナス是ニ於テ生スル第二期幼蟲ハ蛙肺ニ入ルヲ待チテ彼ノ雌雄固躰ナルラブト子マ、ニグロベノ—サニ成長スルナリ蛞蝓(ナメクヂ)ノ一種ニ寄生スルレプトデラ、アッペンヂクラタ及ビ人躰ニ見ル所ノラブド子マ、ストロンジロイデスハ以上說ク所ト同一ノ發育ヲ遂グル者ナリ

(十五) 蛔蟲ノ雄

(十六) 仝蟲ノ雌

(十七) 仝蟲ノ前端唇突起ヲ示ス

(十八) 仝蟲雄ノ後端部正中縱斷面

(十九) 仝虫食道及ビ腦ヲ經過スル横斷面

(二十) 仝虫躰ノ中程ヲ通過スル横斷面

(廿一及廿二) 仝虫卵巢横斷面卵細胞ノ發生ヲ示ス

談蟲ハ廣ク全世界ニ播布スグリーンランド、フヒンランド、印度ヌビア、アンチリス及ヒ亞米利加(黑人種)ニ於テ殊ニ多キガ如シ唯アイスランドニハ未タ嘗テ談虫ヲ見ズト云フ果シテ全クナキヤ疑ヒナキ能ワス凡ソ蛔虫ノ發育ハ濕氣ニ因テ補助セサルノヲ以テ濕地又ハ多雨ノ年ニ多ク出現スルヿ敢テ怪ムニ足ラス而メ往々非常ニ發生シ殆ント一種ノ流行病ヲナスヿアリ又蛔虫ノ以テ定居トナス所ハ小腸ナリ然レ𪜈往々談所ヲ去リテ胃或ハ食道ニ入ル然ル

ヒハ概子嘔吐ヲ發作シ口若シクハ鼻孔ヨリ噴出ス其氣管二入リ或ハユースタキ管ヲ經テ耳内ニ達スルヿアルハ唯稀ニ見ル所ナリ又虫ハ往々大腸ニアリ之レ肛門ヨリシテ大便ト共ニ外出ノ途ニ就キタル者ナリ又小形ノ者ハ時トシテ肝管ニ潜入シ肝臓中ニ入ル他ノ場合ニ在テハ膈壁ヲ破リ躰腔ニ達シ頻ニ躰壁ニ濃腫ヲ發シ遂ニ外出スル ニ至ル或ハ腎盂若クハ膀胱ニ穿入シ尿道ヨリ退出スルヿ亦稀ニアリ

(廿五) 或ル小形線虫ノ斜方形筋細胞ヲ表面ヨリ見ル圖縱線間ニ縱行ニ並列ス

(廿六) 或ル線虫ノ筋細胞一個ヲ示ス

第十一圖　線虫類

(一) 蛔蟲ノ雄ヲ解剖シタル圖

(二) 全蟲ノ精蟲但シ雌ノ子宮中ヨリ取リタル者

三ヨリ八ニ至ル 全虫卵細胞ノ分割シテ子蟲ニ發育シタル狀ヲ示ス

今茲ニ精虫發生ノヿニ付一言セントス睪丸管ノ盲端ニ近キ部ハ夥多ノ核ヲ含メル原形質ヲ包有ス核ハ始メハ不規則ニ存在スルモ睪丸管ヲ輸精管ノ方ニ追視スレバ原形質ノ外圍部ニ於テ順正ニ排列スルヲ見ル而メ原形質ハ每核ノ周圍ニ溢レ入リテ分界サレタル許多ノ小細胞ヲ作ル但シ細胞ハ始メ細莖ニ因テ中央軸ナル原形質柱ニ懸着スト雖モ暫クシテ之ヲ離レ睪丸管中ニ浮游シ各自四個ニ分裂

スルヲ常トス此等ノ細胞(精細胞)ハ交合ニヨリ雌虫ノ子宮ニ達スルニ非ラザレハ亦其形狀ヲ變セズ而シテ一旦子宮ニ入ルヤハ精虫ト稱スベキモノニ變狀シ而シテ厚形質ハ其凸所ニ聚マリテ虛足狀突起ヲ伸縮シ運動ニ依精蟲ハ雌蟲ノ生殖器中ニ夥シク見ル所ナリ

(九) 猫蛔蟲ノ頭部兩側ノ隆起線ヲ示ス

(十) 仝虫ノ卵子

右ノ蛔虫ハ猫及犬ニ甚タ多ク見ル所ナリ其人躰ニ寄住スルハ蓋シ多カラズ談蟲ヲ人躰ニ發見シタルハベリンハム氏(愛蘭)ヲ以テ嚆矢トス爾來英國獨乙國グリーンランド等ニテ數回談患者ヲ目擊セリ症候ハ從來ノ經驗ニテハ一

患者ニ在ル蟲數ハ每ニ少許ニシテ病徵判然セサリシナリ蟲ノ形狀ハ蛔虫ヨリモ細少ナルヲ以テ食道ニ沿ヒテ咽頭ニ進入スルヿ一層易キニ似タリ嘗テノ蟲咳嗽ノ爲ニ吐出セラレタルヿ二回アリタルハ蓋シ氣管ニ入リタルニ由ルナルベシ

(十一) 蟯虫ハ雄

(十二) 仝虫ノ雌

(十三) 仝虫ノ前端部

(十四) 仝虫雄ノ後端正中面縱斷面

(十五) 仝虫雌ノ中部ヲ通過スル横斷面

談蟲ハ人類ニ限リ寄生シ全世界ニ播布セリ小兒ハ殊ニ多

ク蔎虫ヲ患フト雖モ成人モ亦之ヲ有スルヿ決メ稀ナラズ
曾テ聞ク八十歳ノ高齢者ニメ蟯虫患者タリシ者アル時ト
メ終生絶ヘズニ或ハ間歇ニ蔎蟲ヲ患フル人アリ蓋シ其人
ノ性質習慣タル蟲ノ移傳ニ非常ニ適合セルニ由ルナルベ
シ勿論不潔ノ習慣若クハ物ヲ腥食スルハ移傳大ニ幇助シ
從テ虫數ヲ増加スルヿ疑ヲ容レス蟲ノ小兒ニ多キハ蓋シ
其好テ物ヲ口ニ入ルヽノ性ニ大ナル関係アルナルベシト
余ハ信スルナリ
蟯虫ノ常居トスル所ハ大腸ナリトス而メ往々其全長ニ無
數(數千)ニ蔓衍ス又屢々肛門ニ近キ部ニ殊ニ多ク占居ス
ルヿアリ抑モ蟯虫ハ糞塊ヲ以テ其常食トナス者ナルカ故

ニ肛門邊ニ存在スルモ亦怪ムニ足ラズ虫ノ消食器首部ニ
在ルヿニ殆シト稀レナリト謂テ可ナリ
(十六) 腎虫ノ前端ヲ前ヨリ見ル
(十七) 仝上雄ノ尾端交合囊及ヒ交合刺ヲ示ス
(十八) 仝上雌ノ全躰
腎虫ハ之ヲ見ルヿ屢ナラズ十六世記中歐洲ニ於テ始メテ
之ヲ犬及猫ノ腎盂ニ視認ス當時ハ蔎動物ヲ以テ蛇類ト看
做シ彼ノ恐水病ヲ發スル犬毒ハ此寄生蛇ト関係アルガ如
キ考按ヲ下セリ其後漸クストロンシルス類ナルヿヲ悟リ
且狐、馬、牛、海馬、等ノ腎盂ニモ寄生シ而メ稀ニハ腎臓ヲ
去リテ輸尿管若クハ膀胱ニ入リ或ハ又躰腔肺臓等ニ存在

スルヿアルヲ發見セリ

(十九) 長腔ストロンシルス雄

(二十) 仝上ノ雌

(廿一) 仝上ノ前端部唇突起ヲ示ス

談虫ハ從來只一回クラウゼンブルク(千八百四十五年)ニ於テ齡六歳ナル小兒ノ肺臓ニ發見セリ談小兒ハ病名不明ノ疾患ニ罹リ死シタル者ニテ無數ノ虫ヲ或ハ肺ノ實質中ニ或ハ氣管内ニ宿在セシメタリ

第十二圖　線虫類

(廿二) 十二指腸虫ノ雄

(廿三) 仝上ノ雌

(廿四) 仝上ノ前端口腔及齒ヲ示ス

(廿五) 仝上雄ノ後端傘狀交合囊ヲ示ス

十二指腸虫ノ蔓延スルヿハ實ニ慘狀ヲ極ムルモノナリ其勞働力ヲ減耗シ以テ一地方ノ盛衰ニ影響ヲ與フルヿハ從來歐洲並ニ埃及ニ於テ往々目擊スル所ナリ

ピルハルツ氏ノ埃及國カイロ府ニ於テ執行セル數回ノ剖檢ニ由テ之ヲ觀ルニ談虫ハ恰モ水蛭ノ如ク其強齒ヲ具ヘタル口部ヲ以テ腸内皮ニ附着ス其尾端ハ每ニ後方ニ向ヒ且ツ躰驅ハ腸内面ニ密接スルヲ以テ腸内容ノ運行ニ抵抗スルヿ少シ故ニ容易ニ脫離セズ又談蟲數夥多ナルヿハ又少シキモ永キニ延クヿハ所謂埃及萎黃病(埃及ニ甚ダ普

通ニ見ル所ナルヲ以テ此名アリ）ヲ發作ス其輕易ナル場合ニ在テハ必ズ先ヅ貧血ヲ興シ皮膚及ヒ粘膜ノ其常色ヲ失ヘ喉靜脈ニ異音ヲ聽キ動モスレバ心動悸ヲ發作ス脈搏急ニノ勞働スルキハ容易ニ疲レヲ生ズ然レ𪜈尋常貧血ト異リ身躰ハ概子衰瘦セスシテ反テ往々脂肪ニ富ミ肥滿ノ狀ヲ呈セリ勿論患者永延シテ一層重症トナレバ大ニ羸瘦ヲ來シ眼瞼ニ於テハ水腫ヲ生シ身躰ハ薄黄色トナリ顏色青サメ實ニ死人ノ狀ノ如クニ變スルモノナリ

（廿六）毛頭蟲ノ雄躰ノ前部ハ腸内皮中ニ穿入セリ

（廿七）仝虫ノ雌

毛頭蟲ハ蟯蟲蛔蟲絲蟲等ト共ニ廣ク世界ニ播布スルカ如

シ從來該蟲ノ在ルヲ認メタルハ歐洲諸國埃及シリア北亞米利加スンダ諸島及ビ日本ナリトス該蟲ハ無害ニシテ症候ヲ現出スルヿナシトノ說アリ是レ或ハ然ラン然レ𪜈蟲數多キニ於テハ無害ニ經過ストハ予ハ斷言スル能ハサルナリ曾テバルト氏ハ生前ニ腦膜炎ト監定ヲ下シタル患者ノ屍ヲ剖檢シタルニ腦部ニハ更ニ異常ヲ見ズ而ノ其腸ニハ無數ノ該蟲ヲ發見セリ又パスカル氏ハ動作不自由ニシテ且ツ言語ノ能ヲ失ヘタル一患者ガ許多ノ毛頭蟲ヲ驅除シ始メテ健全ニ復シタルノ例ヲ報道セリパスカル氏ハ左ノ事項ヲ以テ毛頭蟲多數ニ在ルノ徵候トナスニ足レリト說ケリ即チ頭痛、面色赤色トナルヿ、急且ツ不規則ナル脈

搏等ナリト云ヘリ

(廿八) 旋毛蟲ノ成蟲所謂腸旋毛蟲ノ雌

(廿九) 仝虫ノ雄

(三十) 旋毛虫ノ幼虫即チ筋肉旋毛虫ノ筋纖中ニ在ルヲ示ス

(廿一) 仝虫廓大圖

腸旋毛虫ハ移傳後五日乃至七日ニシテ全ク成熟シ子虫産出ヲ始メ凡フ五週間ニシテ止メ死ニ就ク偖テ一般ノ内臓虫ニ在テハ其産スル卵子若クハ子虫ハ一旦必ス外界ニ出ヅルモノトス旋毛虫ニ於ケルモ腸内ニテ産出スル子虫ノ一部分ハ動モスレバ大便ト共ニ外出ス然レ𪜈是レ實ニ少

數ニシテ其多數ハ産出後直チニ母蟲ノ占居スル宿主ノ組織中ニ進入シ幼蟲即チ筋肉旋毛蟲ニ變ズルモノナリ偖テ其宿主ニハ種々ナル動物アリ皆肉食スルヿアルモノナリトス是レ蟲ノ移傳法ノ然ラシムルヿ言ヲ待タズシテ明ナリ旋毛蟲ハ只夥多ナル戰類ヲ以テ其宿主トナスノミナラズ全地球上ニ播布スルモ亦甚ダ廣シ曾テ歐羅巴全洲ニ之ヲ發見ス其中央部及ビ北部ニハ殊ニ多シ又北米幷ニ智利ニ勘カラズ而ノ鼠及ビ豚ノ播布ト共ニ廣ク全世界ニ蔓延ト假定スルニ充分ノ理アリ但シ其人躰ヲ侵スハ各地方ノ風習ニヨリ一樣ニ屢々ナラザルベク時宜ニ由テハ全ク之無キノ地アルナラン

歐洲ニ在テハ旋毛蟲發見（千八百三十五年英國ニ於テス）以來該蟲患者ヲ實見スルヿ續々其數ヲ增シ而ノ其發育幷ニ病的關係ハロイカレト、ウヒルヒヨウ及ビツエンケル三氏ノ實驗スル所ヲ以テ確實ナリトス

第十三圖　線蟲類

(一)　唇フヒラリア雌

該虫ハ只一回チーブルスノ一學生ニ宿在シタルヲ知ル此人ハ數日間唇ノ裏面ニ異感ヲ覺ヘ鏡ニ就キ見タル二白色ノ含濃小疹ヲ發見シタルヲ以テ之ヲ破潰シタル二内ニ絲狀ノ物躰ヲ見ル依テ之ヲ引キタル二容易ニ出テ來レリ是レ即チ上記ノ虫ナリ此圖ハ前記ノ蟲ヲ寫セルモノナリ

(二)　ゲシヤイト氏發見ノ水晶體フヒラリアゲシヤイト氏ノ眼線蟲ヲ發見セシハ一老人ノ變常シタル水晶躰中ニ三個ヲ得タリ各々大小ヲ異ニシ大ナル者ハ四、三ミメ小ナル者ハ凡ソ一、六ミメノ長サヲ有セリ躰ハ細ク其前端ハ稍々尖リ尾端ハ少シク膨大シ其極端ニハ鉤狀ニ曲リタル一小部ヲ有セリ

眼線蟲ト眼内障トノ間ニ如何ナル關係アリヤ從來ノ僅少ナル經驗ニテハ審明ナラス但シ獸類ニ在テハ眼線蟲ノ失明ヲ原因スルヿアルハ實驗ニ因テ明カナリ家蓄鳥類及ヒ魚類ハ眼中ニ線蟲ヲ有スルヿ決シテ稀レニアラザルナリ

(三)　住血絲狀蟲（併セテ二三ノ赤血球ヲモ圖ス）

該蟲播布ハブラジル英領印度及ビ濠洲ノ外尚ホ支那、日本、暹羅、埃及、喜望峯、リユニオン、マウリシウス及ビアンチリスノ諸島ニ視察セリ恐ラクハ尚廣ク播布スルナラン

該血蟲病ノ初期ニ在テハ乳糜尿ノミヲ見後ニ至テ血液之ニ加ハルヲ以テ通例トス時トシテハ血乳糜尿ハ數年間モ絶ヘス繼續スルヿアリ但シ稀有ナルカ如シ上ニ述ブル病患ノ發作ハ再三反覆シテ許多ノ星霜ヲ經過ス患者ハ此間衰弱ノ色ナク高齡ニ達スルヲ得又更ラニ症候ヲ呈セサル人ニシテ血蟲ヲ有スル者アルヿアリ然レ𪜈又他ノ場合ニ在テハ患者ハ貧血トナリ大ニ衰瘦シ終ニ或ハ下痢症トナリ或ハ然ラズメ死ニ至ル

(四) 絲狀蟲

(五) 全虫ノ頭端ヲ前ヨリ見ル圖

(六) 全蟲ノ前端部解剖略圖

(七) 全蟲ノ後端部解剖略圖

(八) 全蟲中部ノ横断面廣濶ナル子宮中夥多ノ子蟲ヲ見ル圖

該絲狀虫ハ熱帶地方(殊ニ東半球ノ)ニ播布ス東印度及ビ埃及ニハ非常ニ多シトス蟲ハ人躰中外表部ノ結組織中ニ住スト雖𪜈其在ル躰部ハ一定セズ蓋シ下肢(踵、脛、股)ニ最𪜈多ク次ニ陰部、軀幹、腕、頭(鼻、唇、舌、耳、邊)等ニ多シ一個人中ノ虫數概子許多ナリ曾テ其數凡ソ五十個ヲ一患者ニ

發見シタルヿアリ

(九) 淡水魚ニ寄生スルイキノリンクス、アンクスタータスノ吻鞘部ヲ通過セル横断面

(十) 仝種ノ内部諸器管ヲ示ス

淡水魚ニ寄生スル鉤頭蟲類ハ種々ナルト雖モ小形種類ノ新鮮ナルモノニ在テハ躰壁稍々透明ナルヲ以テ之レヲ微壓シ内部諸器管ノ大略ヲ鏡檢スルニ難カラズ躰軀小ナリト雖モ成熟シタル雌ニ在テハ躰内ノ浮游卵巣及ビ卵子ハ透視ヲ妨クルヿアリ吻ノ運動ハ虫ノ生活中容易ニ視察スルヲ得生活力ノ衰弱スルニ於テハ該器ハ必ス吻鞘内ニ収藏セラル此圖ハ淡水魚ヨリ取リタル蟲ヲ微壓シ細見シ

テ寫セシモノナリ

第十四圖　鉤頭蟲類

(十一) エキノリンクスノ雌蟲生殖輸管ヲ背面ヨリ見ル

(いハ鐘ノ前門、ろハ其後門、はハ鐘ノ壁ヲ成セル長形細胞ナリ)

前第十三圖ノ(十)ノ解ト仝シ後ハ略字ノ解ヲ參照スベシ

(十二) エキノリンクス卵ノ分割ニ際セルモノ三個

(十三) 仝上卵ノ外膜及ビ幼蟲ノ創基(アンラーダ)ヲ示ス

(いハ中央細胞塊、ろハ其外圍ナル説明細胞層)

(十四) 仝上幼虫ノ發育シタルモノ

(十四) 仝上幼虫ノ全成シタルモノ

該卵子ハ母蟲ノ躰腔ニ在リテ分割ヲ始ム仝其分割中ノ者

三個ヲ(十二)ニ示セリ斯クテ終ニ小細胞ヨリ成立セル紡錘狀躰ニ變ズ其表面ニハ薄キ卵膜ヲ汚泌ス而メ幾許モナク其下ニ第二ノ稍々厚キ包膜ヲ生シ尋テ亦第三ノ包膜ヲ生ス是ニ於テ在中ノ紡錘狀躰ハ中央ナル暗色細胞塊(十三)幷ニ周圍ナル鮮明層(仝圖)ニ分別ス此外層ヲ成セル諸細胞ハ迅ニ相容合ス而メ其前端ニ近キ一部ニ數小鉤ヲ具ヘタル小盤ヲ發生ス(十四)(十五)該盤ハ筋纖維ノ之ニ附屬スルアリテ自在ニ牽引セラレ而メ盤下物質ノ彈力性ニヨリ其舊位置ニ復ス

(十六) 人躰エキノリンクス

該蟲ハ曾テプラーグ府(ボヘミア洲)ニ於テ白血病ニ罹リ

死シタル齡九歳ノ男子ノ小腸中ニ其一個ヲ發見ス蟲ハ雌性ナリキ其生殖器ハ視察シ得タルモ卵子ハ未タ發生シアラザリシ彼ノ男子ノ死前久カラザル時ニ於テ移傳セシナルベク恐ラクハ只偶然ニ人躰ニ寄生スルモノニシテ其本宿主ハ或獸類ナラント云フ

(十七) 巨大エキノリンクス

(十八) 仝種ノ前端部ヲ示ス

該蟲ハ豚腸ニ住スル1屢ナリ或地方ニテハ非常ニ多ク見ル所ナリト其一豚ニ在ルヤ往々夥多ニメ劇烈ナル消化妨凝ヲナス者ナリ同蟲ハ曾テ一回齡九歳ノ小兒ニ發見シタル1アリ恐ラクハ只偶然人躰ニ寄生スル者ナルベシリン

デマン氏ノ所說ニヨレバ該虫ハ南部魯西亞ニ於テ人腸ニ見ルヿ稀ナラズト然レ𪜈未タ此說ハ充分信ヲ措クニ足ラズ

(十九) 水蛭吸痕ノ形狀ヲ示ス

(二十) 醫用水蛭ノ口腔ヲ裂テ在中ノ顎ヲ示ス腹面ヨリ見ル

(廿一) 仝上ノ顎一個ヲ廓大ス

(廿二) 仝上神經系ノ前部ヲ示ス

(廿三) 仝上ノ生殖器ヲ示ス

(廿四) 仝上ノ消食器ヲ示ス

(廿五) 仝上ノ卵子

醫用水蛭ハ元來歐羅巴全洲亞細亞西部及ビ亞布利加北部

二分布シ甚タ普通ナリシモノナルガ近來諸地方(殊ニ獨乙)ニ在テハ醫用ノ爲メニ捕攫シ大ニ減少シ或ハ全ク其跡ヲ見ズ故ニ人爲ニ飼養シ或ハ他地方ヨリ輸入シテ其需用ニ應ズルノ場合ニ立至レリ該蟲一度皮膚ニ吸着シアル1往々一時間ニ及ブ𪜈ハ其吸収スル血量ハ蟲ノ大小ニ依テ差異アリト雖𪜈其一旦充分ニ腸ヲ滿タス𪜈ハ更ニ數月間モ食ヲ要セス此間ハ醫用ニ供シテ其効遠ク饑餓シタルモノニ如カス然レ𪜈其腸ヲ洗ヘ用ユル𪜈ハ略ボ前ニ等シ一度吸着セシ蟲ハ其後躰部ヲ切斷スレ𪜈脫落セズ而メ食道壁ハ依然トシテ其喞筒運動ヲナス故ニ吸取スル所ノ血液ハ斷ヘズ切口ヨリ流出シ一層多量ノ血液ヲ除去シ得ル

モノナリ人蓄若シ水蛭ノ多ク住スル水中ニ入ルトキハ忽チ来襲シテ困難ヲ生ズルヿ往々ナリ曾テ知ル小兒或ハ幼獸ノ醫用水蛭ノ爲メニ襲ハレテ命ヲ失ヘタルモノアリ

(廿六) 日本水蛭(♀ハ雌生殖門 ♂ハ雄生殖門)

(廿七) 仝上ノ背面着色ノ異ナレルモノ三(甲乙丙)ヲ示ス

談水蛭ハ我邦ニ於テ醫用ニ供ス可キハ只此種類アルノミ其効ハ歐洲ノ醫用水蛭ニ比シテ甚タ微弱ナリ多ク池、河溝水田等ニ産ス

(廿八) 日本山蛭

談蟲ハ從來遠洲秋葉山、美濃、伊賀、箱根等ノ高山ニ發見セリ恐ラクハ本邦内ニ廣ク播布スル者ナラン但平原ニハ一

切ナシ

山蛭ハ草木繁茂ノ四時濕氣ノ絶ヘザル場所ニ棲息シ苔枯葉等ノ下ニ隱在シ人畜ノ近ツクトキハ忽チ出現ス雨中或ハ雨後ニ殊ニ多シ時トシテハ草或ハ小樹ニ附着シアリ其性頗ル活潑ニシテ人畜ニ會フトキハ脚ニ登ルヿ極メテ迅速ナリ其數多キトキハ之ヲ脚ヨリ取リ盡ス開殆ンド無シ咬着ハ至テ靜穩ナルガ故ニ知ラズシテ經過スルヿアリ然レトモ吸痕ハ比較的ニ深ク往々數月間モ治セズシテ困難ヲ生ス故ニ醫用ニ供ス可カラズ其一旦吸着スルトキハ三十分乃至四十分時間モ脫離セスト云フ

第十五圖　環節動物

(一) 紋蝨

此蟲ハ其實ドロンビヂウムト稱スル一種ノ幼蟲ナリ躰面赤色ニシテ許多ノ毛ヲ生ス其脚ハ只三雙ヲ有ス草木ニ附着シアリテ人類若シクハ獸類(犬)ニ移リテ寄生ス而メ久シカラズシテ再ヒ草木ニ移リテ成熟ス此成熟シタルモノハ即チトロンビヂウムト稱セラルヽモノナリ

人畜ノ此蟲ヲ受クルハ家園、野、林等ニ於テス又藁若クハ其他ノ枯草ヨリ傳米スルヿアリ其皮膚ニ附着スルヤ單個或ハ群ヲナシ頭部ノ皮中ニ穿入シ長且ツ大ナル吸吻ヲ以テ血液ヲ吸収シ腫ヲ生スルモノナリ

(二) 蝨(ダニ)ハ雞カ寄生シ成大シタル狀腹面ヨリ見ル

(三) 仝上背面ヨリ見ル

(四) 仝上ノ顎鬚ノ終節ヲ示ス

(五) 仝上雄ノ吻ノ形狀ヲ示ス

蝨ハ草木ノ葉ニ附着シアリ而メ其雄ニ限リ羊、牛、犬若クハ人躰ニ移リ寄生ス該蟲ハ其頭ヲ皮膚ニ穿入シ血液ヲ吸取ス其咬着ハ多ク痛ミヲ感ゼシメズ然レモ一旦咬着シタル蟲ヲ不注意ニ除去スルトキハ彼ノ倒鉤ヲ具ヘル口部ヲ皮中ニ殘シ甚タシキハ膿衝ノ基トナルヿアリ

(六) 鳩蝨ノ背面ヨリ見ル(此ハ(四)ノ右ニアリ)

該虫ハ鳩ノ巣箱若クハ居室内ニ隱在シ夜間ニ鳩(殊ニ其幼鳥)ヲ襲ヒ血ヲ吸取ス又人躰ヲモ侵スヿアリ其吸痕ハ

甚ダ痒ク而メ痒部ハ漸次擴延シ久ク止マス或人試ミニ一虫ヲ手掌ニ吸着セシメタルニ充分血ヲ吸ヒタル後自カラ落下シタリ而メ其吸痕ハ三日ニシテ治シタルモ十八日ノ後更ニ痒キ小結節ヲ生シ數年間モ存在セリト此蟲ハ南京虫ト一緻ニ光線ヲ厭ムモノニシテ夜中ト雖ヒ灯照シアルキハ出現スルヿナシト云フ

(七) 伯兒斯蟲腹面ヨリ見ル(此レハ(六)ノ右ニアリ)

談蟲ハ伯兒斯國(殊ニミアーナ地方)ニ多ク之ヲ生ジ土人之ヲマレート稱ス又埃及國ニモ之レアリト云フ夜間其潛窟ヲ去リテ人躰ヲ襲ヒ血液ヲ吸取シ頗ル煩ハシキモノナリ曾テ聞ク談蟲ノ爲メ死シタル旅人アルヲ但其過大ナル

言ニアラザルヲ保セズ巴里ノメニン氏ハ試ニ飢ヘタル一蟲ヲ吸着セシメタルガ格別ナル患害ヲ殘サヾリシト

(八) 乾酪虫一種(此レハ九ノ左ニアリ)

談蟲ハ微小ノ蟲類ニシテ乾酪中ニ生ス往々乾酪ニ古色ヲ添ヘン爲メ故意ニ之ヲ放ツノ弊アリ談虫若シ多數ニ胃中ニ入ルキハ加荅兒ヲ起ス者ナリ近似ノ種類ハ砂糖菓子等ニモ生ズルヿアリ

(九) 毛蟲(つゝがのむし)(此レハ十ノ上ニアリ)

(十) 仝上蟲恐ラクハ雄ナルベシ(此レハ九ノ下ニアリ)

談虫ハ皮膚ニ咬着シ大ニ燒衝ヲ起シ動モスレバ發熱シ容

易ニ治セズ故ニ土人ノ此虫ヲ恐ルヽ甚タシト云フ傳聞スルガ如クバ此虫ハ獨リ秋田縣下ノミナラズ亦本邦ノ所々(越後、信濃)ニ之レアル者ノ如シ

(六) 疥癬虫ノ雄腹面ヨリ見ル(此レハ(一)(二)ノ上ニアリ)

(七) 全蟲ノ雌背面ヨリ見ル(此レハ(八)(九)ノ上ニアリ)

(八) 全蟲ノ皮中ニ穿テル孔ヲ示ス(此レハ(八)(七)ノ左ニアリ)

疥癬ノ始メテ發スルヤ蟲ハ神經ノ末抄ヲ刺激シ或ハ損傷スルガ故ニ該点ニ苛痒ヲ感ジ穴中ニ透明液ヲ滲出ス穴ノ周圍ハ焮衝シ而メ入口ハ變シテ小疹トナル患者ハ苛痒ニ堪ヘズシテ之ヲ搔クカ故ニ益々皮ヲ破リ滲出液ノ量ヲ増シ又出血ヲモ來タス是ニ於テ該部ハ膿腫スルニ至ルモノ

ナリ搔痒ニ際シ幼虫ハ諸部ニ散布シ疥癬ハ益々盛大ヲ極ム皮膚不潔ナルニ於テハ殊ニ甚シトス又手指衣服等ニ附着シアリテ甚ダ他人ニ移傳シ易シ疥癬ノ發スル丁皮ノ柔軟ニ関係アリ例ヘバ指又ニ最モ多キハ蓋シ虫ノ咬込ミ易キニ因ルナリ

第十六圖　環節動物

(九) 毛囊蟲(デモデックス)(此レハ(十三)ノ上ニアリ)

デモデックスハ犬、豚、猫、羊、牛、等ニモ之ヲ見ル通例人躰ノモノトハ異種ナリト看做サル者ナリ犬ニ在テハ一種ノ重症ナル皮病ヲ起シ病患ハ終ニ全躰面ニ蔓延スルニ至ル該犬毛囊虫ハ人躰ニ移リ痒キ皮疹ヲ發スル丁アリ

(十) 蓋舌虫ノ肝臓中ニ在ル圖（此レハ(十一)ト(十三)ノ上ニアリ）

(十一) 蓋舌虫

從来發見シタル蓋舌虫ハ皆幼虫ナルモ躰長凡ソ一寸五分ニ達スルモノアリタリ此虫ハ亞布利加熱帶地方ニ於テ土人ノ肝若クハ肺ヲ侵ス該虫ガ組織ヲ穿貫シテ外出セントスルトキハ甚ダ危險ヲ致シ且ツ往々死ヲ来スヿアリ

(十二) 舌虫ノ幼虫有齒舌虫

該虫ハ躰面ニ夥多ノ小刺ヲ生スルノ外其形狀ニ於テハ成虫ト異ナル所ナシ往時ハ之レヲ一特種ト誤認シ（有齒舌虫）ノ名稱ヲ附セリ幼蟲ハ其發育完全ナルトキハ更ニ運動カヲ得而シテ其包囊及ビ組織ヲ破リ皆途ヲ肺臓ニ取リ氣管

ヲ通過シテ鼻腔ニ進入ス舌虫ノ人躰ニ生スルハ獸類ニ於ケルガ如ク屢々ナラズ且ツ生ズル所ノ蟲數モ亦多カラザルヲ以テ常トス而シテ多クハ幼虫ヲ飼犬ヨリ受クルモノト看做シ敢テ誤ナカルベシサレバ犬ニ該虫ノ生シタルヲ認ムルトキハ之ヲ遠ザクルヿ猶豫スベカラズ

(十三) 毛虱（ケジラミ）

毛虱ノ生ズル患害ハ尋常ノ虱ニ等シ但シ痒度ハ一層甚シキガ如シ虫若シ小兒ノ眉ニ生スルトキハ眉毛ハ全ク落失スルニ至ル虫ヲ撲滅スルニハ水銀膏ヲ用ユ

(十四) 衣虱ノ口部ヲ示ス

此虫ハ人類ノ軀幹ノ皮面ニ密着スル衣類ニ住ス只極北及

ヒ熱帶地方ニハ之ヲ見ズ而ノ其他ノ地方ニハ甚タ(殊ニ不潔性ノ人ニ)多シ其吸痕ハ苛痒ヲ發作ス而ノ掩痒ハ往々皮膚ヲ燃衝シ時トシテハ一種ノ潰瘍ヲ生シ虫ハ其中ニ棲息スルヿアリ虫數ハ時機ニヨリ增殖シ之ヲ盡滅スルヿ難ク且ツ容易ナラザル健康妨害ヲ致スヿアリ

(十五) 頭虱ノ卵頭髮ニ附着スル圖非常ニ廓大ス

(十六) 頭虱

談虫ハ全世界ニ播布シ人ノ老若ヲ問ハズ其頭部ノ毛髮アル所ニ寄生スルヲ以テ常トスト雖モ亦時トシテ其他ノ有毛躰部ニ生ズルヿアリ(不潔人ニ然ルヿ殊ニ多シ)虫ハ血液ヲ吸ヒ以テ食トナス其吸痕ハ甚タシキ苛痒ヲ生ズルモノナリ此虫ヲ撲滅スルニハ伯露バルサム若クハエーテル性ノ油類ヲ毛髮ニ附ケ且ツ能ク梳櫛スルヲ以テ足レリトス

(十七) 衣虱

前十四圖ト全シ就テ見ルベシ

(十八) 壁虱

(十九) 全上ノ口部ヲ示ス(ハ吻、ろハ複眼、はハ觸角ナリ)

談蟲ハ目今殆ント全世界ニ播布セリ歐洲ニハ元ト此虫ナカリシガ當時ハ非常ニ普通トナレリ恐ラクハ東印度ヨリ輸入シタルナルベシ支那、朝鮮ニハ古クヨリ之アルガ如シ我國ニハ近來渡來ノ外國人カ談蟲ヲ持來リ開港場ナド

ニハ時々現出スルヿアリ嘗テ大坂鎮臺ノ兵營ニ蚊蟲ノ盛ニ發生シタルヿアリ而メ明治二十年ハ蚊府ノ救育場及ビ民宅ニモ盛ニ生ジ人々其驅除ニ苦シミ家屋ヲ燒拂ハントノ評議出ツルニ至リタリ向後蚊蟲ノ廣ク我邦ニ蔓延スルニ至テハ一大不幸ト謂フベシ

(二十) 肉蠅一種ノ蛆

躰長ハ九乃至十三ミリメ頭ハ黑ク兩側ニ赤色毛ヲ生ス觸角ハ赤黃ナリ腹部ハ青色ニシテ頗ル光澤アリ此蠅ハ春ヨリ秋ニ至ル間家屋内外ニ多ク其飛行スルトキハ濁音ヲ發ス好テ肉類ニ産卵シ二十四時間ニメ已ニ蛆ニ發生ス此蛆ハ偶然人躰ニ生ズルヿアルハ猶ホ肉蠅ノ蛆ニ於ケルカ如シ

(廿一) 喰人蠅ノ蛆

此蠅ハ南亞米利加ノ諸國ニ在リ其蛆ハ人ノ鼻腔及ビ前腔ニ寄生シ往々咽喉咽頭等ニ侵入シ而シテ粘膜ヲ擾亂シ甚タシキ患害ヲ致スヿアリ

(廿二) 花蠅一種ノ蛆

大サ六ミリメ妙テ樹下ニ飛行ス其蛆ハ著明ナル較キ刺ヲ有ス

(廿三) 皮膚蠅ノ蛆

此蠅ハ南亞米利加ニ産シ卵ヲ人畜ノ皮中ニ置ク蛆ハ灰色ニシテ三ミリメノ長サニ達ス其居トスル皮膚点ニ腫ヲ發ス

(廿四) 肉繩ノ蛆

此蠅ハ夏及ビ秋ニ山野ニ多ク見ル所ナリ躰長ハ十乃至十四ミメニ過キズ面部ハ白色若クハ薄黄色ナリ胸ハ灰色ニシテ三條ノ暗色縲線アリ腹ハ心形其色茶褐色ニシテ白斑アリ母虫ハ一時ニ五十乃至八十ノ卵ヲ置ク而メソノ半年間ノ産卵數ハ數十万ノ上ニ出ツト云フ右ノ蛆ハ通常肥料若クハ其他ノ汚物中ニ生息スルモノナリト雖モ往々人躰ニ生ズルヿアリ嘗テ之ヲ創口、潰瘍、咽喉、胃、鼻腔、耳孔、眼膜下、尿道、腟、等ニ發見セリ(抑モ蛆ハ空氣呼吸者ナルヲ以テ多少空氣ノ流通アル場所ニノミ生ス)蓋シ母蟲ガ卵ヲ其所ニ置キタルカ將タ又卵子若クハ未タ成大セザル幼蟲ガ食物ニ附着シアリテ消食器中ニ入ルニ因ルナリ

蛆ハ其内皮ヲ刺衝シ加荅兒、嘔吐等ヲ發作ス往々胃中ニテ蛹ニ化シ大便ト共ニ排出セラルヽヿアリ

(廿五) 砂蚤ノ雌既ニ寄生シタルモノニシテ其腹ハ著シク膨大セリ

躰長ハ一乃至一、二ミメ茶褐色ナリ雄ハ寄生セズ雌ハ交合後其頭ヲ人畜ノ跡若クハ蹠ニ穿入シ而メ腹部ハ在中ノ卵子ノ成熟ト共ニ大ニ膨大ス産卵後ハ自然ト死ニ至ル卵ハ地中若クハ水上ニアリテ幼蟲トナル中央及ビ南亞米利加ニ多ク産スル所ナリ其吸痕ハ不注意ナル取扱ヲナスニアラザレバ危險ナラズ

第十七圖　海蟲

(一) ホツスガヒ全体縮圖

（イ＝ハ硅質條束、ロ＝ハエビスアンサス、ハ＝ハ海綿ナリ）

該拂子貝（ホツスガイ）ト稱スルハ我相模ノ沼海ニ産スルモノニメ海綿ノ硅質條束ナリ然ルニ該拂子貝ニハ必スエビノアンサスト稱スル珊瑚ノ一種カ棲息スルヲ常例トス此圖ハ人躰寄生者ナラズト雖ヒ何ニ因ラス寄居スル其一例ヲ示セシノミ

(二) 鯨ノ皮上ニ附着スルコロヌラト稱スルモノ

該コロヌラト稱スルモノハ鯨族若クハ海龜ノ躰面ニ附着スル一稀ナラス該コロヌラハ蠕脚類ノ一種ニシテ寄居者ナリ

(三) ガストロフヒルス

該ガストロフヒルスト云ヘルハ蠅ノ一種ニシテ幼時（タケノコムシト稱ス）ハ馬ノ胃中ニ寄生シ其間ハ移行スルヿナシ然レヒ成長ノ後ハ外界ニ飛行ス（甲ハ其幼虫ニシテ馬ノ胃中ニアリ乙ハ其成虫ナリ）

(四) 蟹ノ腹面ニ寄生スルサツキュリーナ

此蟲ハ本質甲殼類ニシテ幼稚ナルヽハ數脚ヲ具ヘ水中ニ游泳スルモ既ニ寄生スルニ及ヒテハ唯生殖物ヲ包藏セル一嚢ニ變ジ躰軀ノ環節節脚ハ悉ク消失ス

（イハ附着ヲ媒介ス根糸狀ナリ　ロハ産卵孔ナリ）

第十八圖　嚢蟲

(一) シーヌールスニ因テ穿孔サレタル羊ノ腦

シーヌールスノ幼蟲ハ即チ是レニシテ羊腦ヲ縱横ニ貫穿シ所謂回轉病ヲ原因ス（羊ハ頻ニ回轉シテ斃ルヽヲ以テ此名アリ）

(二) 舌蟲ニ因テ侵サレタル家兎ノ肺

舌蟲ノ幼蟲ハ胃壁ヲ破リ次テ肺臓及ヒ横隔膜ヲ突キ肺中ニ侵入シ甚タシキハ熱衝ノ基トナリ宿主ハ之カ爲メニ往々死ニ至ルアリ又或場合ニ在テハ幼蟲ハ組織ヲ貫穿ストヽ雖モ亦多ク害ヲ殘留セザルヿアリ

(三) 魚形囊蟲ニ因テ穿孔サレタル家兎ノ肝臓

談蟲ハ（獵犬、縧蟲ノ幼蟲ナリ）兎ノ肝臓ニ入リ之ヲ痛ク攪亂スルモ死ニ至ラシメス蟲ハ漸次退出シ兎ハ健狀ニ復ス

ト云フ

第十九圖　腸蟲ノ卵子

「イ」ハ蛔蟲「ロ」ハ蟯蟲「ニ」ハ毛頭蟲「ホ」ハ十二指腸蟲「ヘ」ハ肝蛭「ト」ハ肺臓ヂストマ「チ」ハ槍形ヂストマ「リ」ハ肝臓ヂストマ「ヌ」ハ無鉤縧蟲「ル」ハ有鉤縧蟲「ヲ」ハ裂頭虫

第二十圖　囊虫

(一) 馬ノ血管ヲ開キ虫節梜ヲ示ス

スコレロストマム、エクイヌムト稱スル小線虫ガ馬ノ腸間膜動脈ノ壁ニ成形スル所ノ凝塊ニシテ血行ヲ妨グ馬ノ之カ爲メ死ニ至ル少ナカラズト云フ

(二) 前眼室ニアル囊虫

(三) 網膜下ニ生ジタル囊虫ヲ示ス

該囊虫若シ眼室ニ在ルトキハ窺眼鏡ヲ用ヒテ之ヲ認ムルヿ甚タ容易ナリ然レトモ若シ皮下結組織中ニ在ルニ於テハ其狀瘤腫ニ紛ラハシク切断若シクハ刺針スルニアラズンバ断定スルヲ得ズ

第二圖吸蟲ノ部（諸國ニ通スル略字ノ解）

イ	咽	ケ	結組織	シキ	子宮
ハ	排泄管	フキ	腹吸盤	シユ	種子
ハコ	排泄孔	コ	睪丸	ジユ	受精囊
チ	腸	コク	殼腺	シン	神經
レヂ	レヂア	コキ	口吸盤	ヒ	皮膚
ラ	卵巣	キ	吸盤	ヒカ	皮下筋肉系
ラオ	卵黄巣	ユラ	輸卵管	モ	生殖門
ラオカ	卵黄管	ユセ	輸精管	セ	生殖細胞
ラウ	ラウレヵ氏管	シ	食道	セル	セルカリア

第三圖及四圖（仝上）

イン	陰莖囊	サイ	包虫壁ノ細層胞
ハ	排泄管	サモ	産卵門

ハイ　背腹筋纖維
ト　所謂頭（包虫ノ生スル）キン　筋纖維
ノト　仝上ノ創起　ユラ　輸卵管
カヒ　下皮層　ユセ　輸精管
ラ　卵巣　ジ　縱筋纖維
ラオ　卵黄巣　ジユ　受精囊
ラオカ　卵黄管　シギ　子宮
オ　横筋纖維　シン　神經
コ　睪丸　シヤウ　包虫壁ノ硝子膜
コウ　鉤　ヒ　皮層
コク　殼腺　モ　生殖門

キ　吸盤

エ　頸　セイ　包蟲ノ生頭肥
テ　腟　ノセイ　仝上ノ破裂シタル殘塊
テモ　腟門　クセイ　頭ノ生頭肥ニ變シタル者
ア　頭

第五圖線虫類諸圖ノ解

諸國ニ通スル略字ノ解

イ　咽喉　コ　睪丸
ホ　包囊（筋肉トリキナ）　コウ　肛門
ト　交合刺（トゲ）　テ　腟
チ　腸（乳糜腸）　テモ　腟門
チク　蓄精囊　キ　筋細肥ノ纖維部

ソノキ　側線　仝上ノ肥狀部
ラユセ　卵巢管　輸精管
ノシ　腦　食道
ケシヤ　筋肉トリキナノ包囊ノ両端ニ新生セル結組織　射精管
シキセイ　子宮　正中線
ヒセイ　皮層（硝子膜）　副縱線
セン　トリキナ包囊内ノ鮮明液
腺質細胞

第六圖鉤頭虫類ノ圖解

リコノ　輪狀筋　交合囊
カヒキ　下皮　筋

レムシ　レムニスクス　硝子膜
ノシヨ　腦　雌性器ノ一部所謂鐘
フシヤ　吻　射精管
フキシキ　吻牽引筋　子宮
ノフヒ　吻鞘　皮層
ノフキセユ　吻鞘牽引筋　生殖器輸管
フラセジ　浮游卵巢　生殖勒帶
コセン　睪丸　腺質細胞
コウ　小鉤

第六圖蛭類

イキ　胃　筋

イン	陰莖	ユセ	輸精管
チ	腸	シ	食道
チセノ	蓄精嚢	シセ	腦或ハ喉上神經節
ラ	卵巣	ノシセ	喉下神經節
フジシ	腹縱神經	〃シセ	腹神經節
コ	睪丸	シヤセ	射精管
コシ	交感神經	セツ	攝護腺
テ	腟		

此書ハ圖解參考ニ供スルノミ猶詳細ヲ知ラント欲セハ飯島魁氏著ノ人體寄生動物編ヲ參照セラレンヿヲ

幻燈應用人體寄生虫圖解終

明治二十二年二月　二日出版
同　　年一月三十日印刷

著作者　栃木縣士族　進成社　三原親輔
發兌兼印刷人　東京本郷區元町壹丁目拾四番地